

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 35

2022年2月14日

J a S P C A N かながわ大会に参加して

令和3年（2021年）12月4日（土）、5日（日）にJ a S P C A N（日本子ども虐待防止学会）かながわ大会が開催されました。今年も、現地とWEBのハイブリッド方式で開催されましたが、感染リスクを懸念してWEBで参加したので、内容についてご報告いたします。

私が、今回最も興味をもって参加した講演の一つが、「少年事件からあぶり出された社会の責任～川口市祖父母強殺事件の取材より～」という特別講演でした。平成26年（2014年）3月に埼玉県川口市で発生した17歳の少年による祖父母強盗殺人事件に関するお話でした。少年が事件を起こすまでの背景として、少年が幼少期から母親と義父から様々な虐待を受けて育っており、小学校5年生からは家をなくしてラブホテルや路上を家族で転々として学校にも通わせてもらえない生活をしていたということでした。そして、母親から、親戚を訪ねてお金を借りて歩く様に指示をされていた中で、いよいよ誰も貸してくれなくなった状況で、殺してでもお金をとるしかないと思わされていたという状況があったということでした。しかも、このような少年の生活状況を役所や児童相談所などもある程度把握していたのに、結果的には少年を救うことができなかったということでした。子どもは決してその家庭だけで養育されるものではなく、社会全体において養育する必要があると私は思います。自分たちのすぐそばに本当は助けが必要な子どもたちがいるかもしれないと認識して、積極的に関与しようとする意識が必要であることを改めて感じました。

他にもSDGsとの関連を意識されているのか、「誰ひとり取り残さない」ということをテーマにした内容が多くあったように感じます。特に「コロナ禍の子ども虐待とネグレクト～「誰ひとり取り残さない」顕在化した課題をポストコロナに向けて～」においては、コロナ禍において、外出自粛や学校の休校などにより、子どもの虐待に関係機関の目が届きにくい状況が発生している現状が報告されました。特にテレワークなどにより常時家庭内にいることでの家庭内ストレスが高まっていること、関係機関や親族による育児支援が困難となっていることから、虐待が生じやすくなっているということでした。また、虐待が発生している場合に、発見が遅れ重症化するケースが増えてきているという医療機関からの報告もありました。このような中では、より一層社会の中で大人たちが注意深く子どもたちに目を向けてあげることが必要であり、それが大人としての責任ではないかと感じました。

その他にも色々と講義を受けましたが、WEBでの参加ではどうしても一人で参加しているという感じになってしまいます。子どもの虐待に取り組んでいる多くの仲間がいることを実感し、この問題に取り組む気持ちを新たにするためには、やはり現地で参加するのが一番であると感じました。早く安心して多くの方と顔を合わせて交流することができる機会が持てることを願っています。

弁護士 砂本 啓介

昨年2021年はNPO法人設立10周年の記念事業として、DVDの制作や、シンポジウム・協議会の開催などさせていただき、これまでの歩みを振り返る機会に多く恵まれました。

この10年間いろいろな出来事がありました。個々の入居者の生活状況はもちろん、「ピピオの家」や「はばたけ荘」の運営、法人としての在り方などについて、しっかり先を見据えて活動してきたというより、その時々で悩み、考え、時には軌道修正などを図りながらなんとかここまでやってきたというのが、「ピピオ」に携わってきたすべての皆さまの偽らざる気持ちではないかと思えます。

それでも、「居場所のない子ども達が目の前にいる」という中で、「ピピオが必要だ」と何らかの形で子ども達に寄り添ってくださる皆さま（仲間）が支えてくれたからこそ、「ピピオ」は今まで歩き続けることができました。

「ピピオの家」「はばたけ荘」に入居してくる

子ども達も、自分の将来を見据えて生活することはなかなか難しく、一日一日を悩み、戸惑いながらなんとか生活しています。ただ、それでも安心して過ごせる場所があり、一緒に悩み考えてくれる大人がいて、そこで一緒にもがく日々は、子ども達にとって、今後の人生を歩き続ける見えない力になっていると思います。これからも「あなたは大変な存在なんだよ」と子どもに寄り添っていく「ピピオ」でありたいと思います。

「ピピオ」の年齢も入居する子ども達と同じ10代になりました。これまでの経験や皆さまからいただくご助言等を踏まえて、今後も一日一日大切に歩んでいきたいと思っておりますので、皆さまのご支援、お力添えを頂ければ幸いです。

2022年、皆さまにとって幸多き一年になることを願っております。本年もよろしくお願いいたします。

理事 蓮見 和明

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフの〇です。前号で紹介した「ピピオの家」の子どもたちのアナログ?!な過ごし方～語学学習、料理、作品づくり、音楽～の続きです。



◆ダイエット

3食+おやつを食べて、運動量の少ない生活では、体重増加はよくある悩み。エアロバイクをこいだり、縄跳びをしたり、腹筋運動したり。エクササイズDVDを観ながら体を動かし、汗を流すことも。続けた人はそれなりに効果が

出ていました。(今流行りの〇〇〇フィットというようなゲームがあれば楽しく続けられるかも。ネット環境が必要そうですが・・・)



◆外出

スタッフ同行での近所でのお散歩、公園で乗るブランコ、スーパーでの買い物、そして何より担当弁護士さんとのたまの外出は、とてもいい息抜き(ガス抜き)になります。(コロナの緊急事態宣言中は、カラオケや誕生日の食事会も自粛となり、ますます窮屈な日々となってしまいました。)

◆その他

小説、漫画を次々と読破!(図書館で予約注文してシリーズものを借りることも。)協力して

1000ピースのパズルを完成！スタッフも一緒にトランプ、ウノ、オセロ、人生ゲームで盛り上がる！など、など。

「ピピオの家」で生活する中で、最も大きな課題は、『今後の進路を決めていく』こと。先が見えない様な時にも、楽しみや気晴らしになることが見つけられると、前向きな気持ちにもなり、明るい表情をしている時間も増えます。

でも、いつもそうとはいかず、「やることない〜」「暇〜」が口癖のようになっていたり、考えるのを放棄してテレビ、DVDばかり観て時間をつぶすこともあります。

厳しい環境を逃れては来たけれど、問題は抱えたままで、おまけに他人との共同生活。不安や苛立ちを、物や自分や周りの人にぶつけてしまうこともあります。みんなの前では明るく振る舞っていても、一人になれるお風呂や居室では泣いてしまうこともあるようです。

外観も内装も「おばあちゃんの家みたい。」とよく言われる「ピピオの家」。その中での生活も、

ちょっと？時代遅れなアナログ仕様で、時間の流れもゆっくり気味。それで気持ちが安らぐこともある反面、前に進もうとするエネルギーを回復した子どもたちの苛立ちの種にもなっていたりと、難しいところです。

★ある子どものつぶやき。・・・「最初はスマホが使えないなんて無理〜！と思ったけど、だんだんそうでもなくなってきた。スマホがなくて、初めてじっくりものが考えられた気がする。まっここから出てスマホが持てるようになったら直ぐにスマホ漬けに戻るけどさっ。」（苦笑い）

「ピピオの家」の日々の生活では、ネット社会とは距離を置いています。避けてばかりはいられません。SNSによって危険にさらされることもあれば、SNSのおかげで「ピピオの家」にたどり着くことができたケースもあります。

ずっと先に行く子どもたちに引っ張られながらもなんとか付いて行き、SNSとの上手な付き合い方を一緒に考えていきたいです。

「はばたけ荘」スタッフのTです。

現在（2022年2月）4人の男の子たちが自立に向け生活をしています。子どもたちにとって大事な居場所、安全で安心できる場所、自立する場所です。

☆季節感・絵本のある環境に（我が家に）

学校・バイトまた仕事に忙しく動いている子どもたちにとって、季節感と絵本のあるホッと居場所にしたいと私たちスタッフは工夫改善をしています。

小さな取組みですが、夏になると庭にはキュウリやトマトが実り、新鮮な野菜が毎日食卓に並びます。また玄関先には、季節の花を咲かせて

いて見た目も気分も華やかになるようにしています。



玄関に入ると絵本を1冊置き、表紙を見るだけでも癒しとなり、手に取って読むとさらに気づきや創造力を高める一助になると思い多様なテーマの絵本を飾っています。

クリスマス・正月などの行事にもリビングを飾って季節感を身近に感じるようにしています。

常に自立するよう求められている子どもたちに、季節感・絵本のある環境を整え、少しでも精神的にゆったり感をもたせいと願っています。

☆応援団がいる

2月・3月は荘から羽ばたく時期で、今年も3人の子どもが飛び立ちます。



大木実の詩「前へ」の一文を思い出します。
—辛いこと、厭なこと、哀しいことに、出
会うたび、僕は弱い自分を励ます。
—前へ—

子どもたちには、自分の後ろにはピピオの応援団がいることを思い出し、自信を持って前に進んでほしいと願っています。

子どもの日記念シンポジウム 2022 開催のお知らせ

毎年4月に開催され、当法人設立の契機ともなった広島弁護士会主催の「子どもの日記念シンポジウム」が、2022年4月24日午後1時30分から広島市青少年センター（広島市中区基町5-61）で開催されます。

今回は、「校則を考える」というテーマで、第1部は、恒例の広島市内の3つの高校演劇部と弁護士ら「ピピオ劇団」による演劇、第2部は、武庫川女子大学・学校教育センター教員で「校則を考

える」などの著書がある大津尚志氏による講演といった内容で行う予定にしています。

このシンポジウムに対しては、ピピオ子どもセンターも後援しております。新型コロナ感染流行の状況次第では、参加者の人数を制限したり、中止することもあるそうですが、現在、開催に向けて鋭意準備を進めているそうです。

ご関心がある方は是非ご参加していただきたいと考えております。

理事長 鵜野 一郎

ピピオ掲示板

広島県共同募金会「令和3年度社会課題解決プロジェクト」に参加しています！

ピピオ子どもセンターは、今年度も広島県共同募金会が実施する社会課題解決プロジェクトの参加団体として活動しています。専用の振込用紙を利用し、社会福祉法人広島県共同募金会に対し寄付していただくと、広島県共同募金会からピピオ子どもセンターに対し配分金を頂くことができます。この募金活動の実施期間は2022年1月から同3月末までです。詳細は、広島県共同募金会のホームページを参照してください。・・・「広島県共同募金会 令和3年度社会課題解決プロジェクト」で検索してください。

子どもたちの生活と自立の支援を行っていくために引き続きご支援をお願いいたします。

寄付等のご協力ありがとうございました

二宮様、山本様、溝下様、蓮見様、コストコホールセールジャパン株式会社様から寄付金を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

また株式会社LIFULL様から、ピピオの家・はばたけ荘の設備等の修繕のための寄付金を頂き、照明器具の取替え、破損があったドア、窓の修繕などに利用させていただきました。一つ一つは細かい修繕ですが、明るく、気持ちのよい環境に改善することができました。

この場で御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>